

素敵な人生 素敵なパートナー



男女共同参画推進懇話会
委員
寺本美智枝

男女共同参画推進懇話会委員になって1年余り、いろいろな事を学びながら諸先輩方と一緒に活動させていただいています。わが家には2人の子どもがいますが、わたしは長女の産産を機に家庭に入り、その後は専業主婦です。しかし「男だから、女だから」といった固定的観念はありません。わたしが留守をしなければならぬ時など夫が家事をしてくれ、子育ても夫婦協力しなければできません。親も子ども各々が責任を持ち、認め合い、時にはぶつかりながらも感謝の心を忘れずにわが家らしいスタイルで支え合っていることが大事だと思っています。

男女共同参画という考えもずいぶん浸透してきたとはいえ、自分らしく生きるということはなかなか難しいものかもしれません。合志市でも「男女共同参画推進行動計画」が策定され、「男女共同参画まちづくり条例(案)」もパブリックコメントを経て、その制定に向けて着々と進んでいっています。わたしたちを取り巻く環境も少しずつ整えられているようです。家庭でも、地域でも、職場でも、相手を思いやり信頼するという良い人間関係を築くことから男女共同参画は推進されると思います。わたしたち一人ひとりが、男女共同参画を理解し、次世代の子ども達に思いやりのある社会を残せるように、わたしも身近なところから自分にできる事を考えて取り組んでいきたいと思っています。

市内各学校でALT
(英語指導助手)
として子どもたちに英語を教えています。

ちょっと



Alison Macdonald
(アリスン・マクドナルド)
出身地: 英国 スコットランド

CHAT time

Recently, my parents told me some very exciting news. In January, they will move from Scotland to Australia for one year! When I heard the news, I was very excited, but also very shocked that they were making such a daring decision.

When I talked about it with my mother, their reasons for moving made me very proud, and also taught me a very valuable lesson. My mother is 56 years old, and in Scotland she can retire from work when she is 60. So, in her last years at work, she decided she would like one last challenge in her career. She is therefore going to take part in a work exchange, where she will work in Australia instead.

All of this taught me a very important lesson that I hope can remember throughout my life. This lesson is: 'it's never too late.' Recently, I have been trying to think of all the goals that I would like to achieve in my life and places I would like to visit. But, when I have been thinking of these things and when I can do them, it is always in the next 5 years.

When my parents told me their exciting news, I realized that it is never too late for an exciting challenge! I am happy that I have learned this; otherwise the next 5 years would have been very busy indeed!

最近、わたしの両親がとてもわくわくするようなことを話してくれました。1月に両親は1年間スコットランドからオーストラリアに引越します。

その話を聞いた時、わたしはとてもびっくりしたと同時に、大胆な決意にショックをうけました。そのことについて母と話をしていると、引越しの理由はわたしをとても誇りに思わせ、またわたしに大事なことを教えてくれました。

母は56歳です。スコットランドでは60歳で退職です。母は定年まで働きたく、彼女の仕事人生の中で最後にもう一度挑戦しようとしてスコットランドではなくオーストラリアで働くことを決めました。

このことが、わたしの人生を通して大切にしていきたい「何事をするにしても、遅すぎることではない」ということを教えてくれました。

わたしは、最近、生きている中でやりたいことや、訪問したい場所について考えようとしています。しかし、わたしが何かを考え、計画から実践にうつるには少なくとも5年間は必要でしょう。

わたしは、両親がわくわくさせる知らせを話してくれた時、挑戦に決して遅すぎることではないと気づかされました。

わたしはこのことを学んで幸せに思います。

次の5年間はきっと忙しいので、わくわくするような挑戦をすることができるかどうかわかりません。

こうし 歴史発見!

第5回

須屋小屋 地蔵祭

場所 須屋
祭日 毎年8月23日



須屋小屋地蔵祭は、交通安全の祈願と地域住民の交流を深めるお祭りとして、4体のお地蔵さんが見守る中、毎年開催されています。地元で伝わる話によると、明治初期ごろ、須屋小屋は、人家は少なかったものの、一本木通り、あるいは上熊本へ抜ける交通の中継地点としてにぎわっていたといわれています。明治30年ごろには近隣の村々でも盛んに地蔵祭が行なわれており、須屋小屋でも同様であったそうです。当時は大変なごちがいでも多かったです。から、別名「けんか地蔵」とも言われていました。途中、昭和15年ごろには戦争の激化で、昭和25年ごろには車の増加により祭りは一時中断していました。しかし、昭和51年に地域の人たちの努力で再び復活し、今年で32回目を迎えます。また、4体のお地蔵さんのうちの1体の近くに、放牛地蔵とよばれるお地蔵さんもあります。須屋の山ノ上の道路交差点に建てられた49体目のお地蔵さんがそれです。お地蔵さんには、「これよりみぎわいふ(菊池市限府) ひだりきの(菊鹿町木野)と刻まれています。放牛地蔵は、江戸時代の僧放牛が、幼いころ、自身のせいで父親を死なせたことからの供養のために建てたといわれており、現在熊本市を中心に約107体が確認されています。そのうちの40体目が作られたころから道の分かれ目に建立されるようになり、道しるべとして活用されることが多くなりました。合志市には、この49体目の他に65体目と75体目の計3体があります。

合志市にもさまざまな文化財がありますが、それらを見てみると、当時、それらを造り利用した人々の思いやかしづりが伝わってくるようです。たった一つの文化財から、いろいろなことが想像され、夢がかきたてられます。今から30年余り前、わたしが二子山石器製作遺跡(広報7月号参照)の発掘調査を手伝ったときも、「西合志にもすばらしい遺跡があるものだ」と感じました。文化財の意義と、それらが与えてくれる感動を多くの人々に伝え、その重要性を啓発していくこと、そして後世に引き継ぐ手助けをすることがわたしたち文化財保護委員の役割であると思っています。今後とも、皆さんのご理解とご協力をよろしくお願い致します。



文化財保護委員
よしとし
木村芳聰
(灰塚)

文化財保護委員から

元気の森公園が 開園しました!

旧ファミリーゴルフ場跡地(幾久富)に整備を進めていた公園が開園しました。園内には、幼児用遊具、あずま屋、外周約600mの園路等が整備されています。皆さんのご利用をお待ちしています。

問い合わせ先
都市計画課 ☎(242)1104

